

Economic Indicators

発表日:2019年5月14日(火)

国際収支(2019年3月)

～貿易収支の悪化を受けて、経常収支は黒字幅を縮小～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
副主任エコノミスト 小池 理人 (TEL:03-5221-4573)

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支
					貿易収支	サービス収支	
2018	1月	6,106	18,748	4,154	4,887	▲ 733	16,244
	2月	21,365	13,585	▲ 1,335	▲ 1,279	▲ 56	16,780
	3月	31,858	17,338	3,483	4,552	▲ 1,070	15,681
	4月	18,865	18,623	4,517	5,624	▲ 1,107	15,664
	5月	18,951	17,933	▲ 607	1,076	▲ 1,683	20,211
	6月	12,115	17,838	687	1,859	▲ 1,172	19,050
	7月	20,269	17,268	339	1,083	▲ 743	18,843
	8月	18,237	14,858	▲ 786	▲ 375	▲ 411	17,606
	9月	18,437	14,542	▲ 1,920	▲ 1,404	▲ 516	17,879
	10月	13,163	13,861	▲ 2,071	▲ 1,642	▲ 430	17,752
	11月	8,211	14,246	▲ 1,624	▲ 1,158	▲ 466	17,183
	12月	4,644	14,882	2,243	1,887	356	14,032
2019	1月	6,004	17,231	▲ 369	508	▲ 877	18,792
	2月	26,768	18,967	2,378	2,027	351	16,865
	3月	28,479	12,710	▲ 937	▲ 1,058	121	14,460

(出所)財務省「国際収支統計」

○経常収支(季調値)は貿易収支の悪化を主因に黒字幅縮小

3月の経常収支(原数値)は28,479億円の黒字(コンセンサス:30,072億円の黒字、レンジ:17,500~35,511億円)とコンセンサスを下回る結果となった。季節調整値では12,710億円の黒字となり、前月(2月:18,967億円)から黒字幅が縮小した。

経常収支(季節調整値)の黒字幅縮小の主因は、貿易収支の悪化(2月:2,027億円の黒字→3月:1,058億円の赤字)である。海外経済の減速に伴い輸出が力強さを欠いた動きとなる中で、原油価格の上昇により輸入が増加したことで、貿易収支が悪化した。

同時に発表された2018年度の経常収支は、194,144億円の黒字となり、前年度から27,605億円の黒字幅縮小となった。2017年度以降、貿易収支の黒字幅縮小を所得収支の増加が下支えするという形が継続している。

○所得収支は引き続き高水準を維持も、直接投資収益の黒字幅は縮小

3月の貿易外収支(季節調整値)をみると、第一次所得収支は14,460億円の黒字と前月(2月:16,865億円の黒字)から黒字幅が縮小した。直接投資収益の黒字幅縮小(2月:8,596億円の黒字→3月:5,978億円の黒字)が主因である。

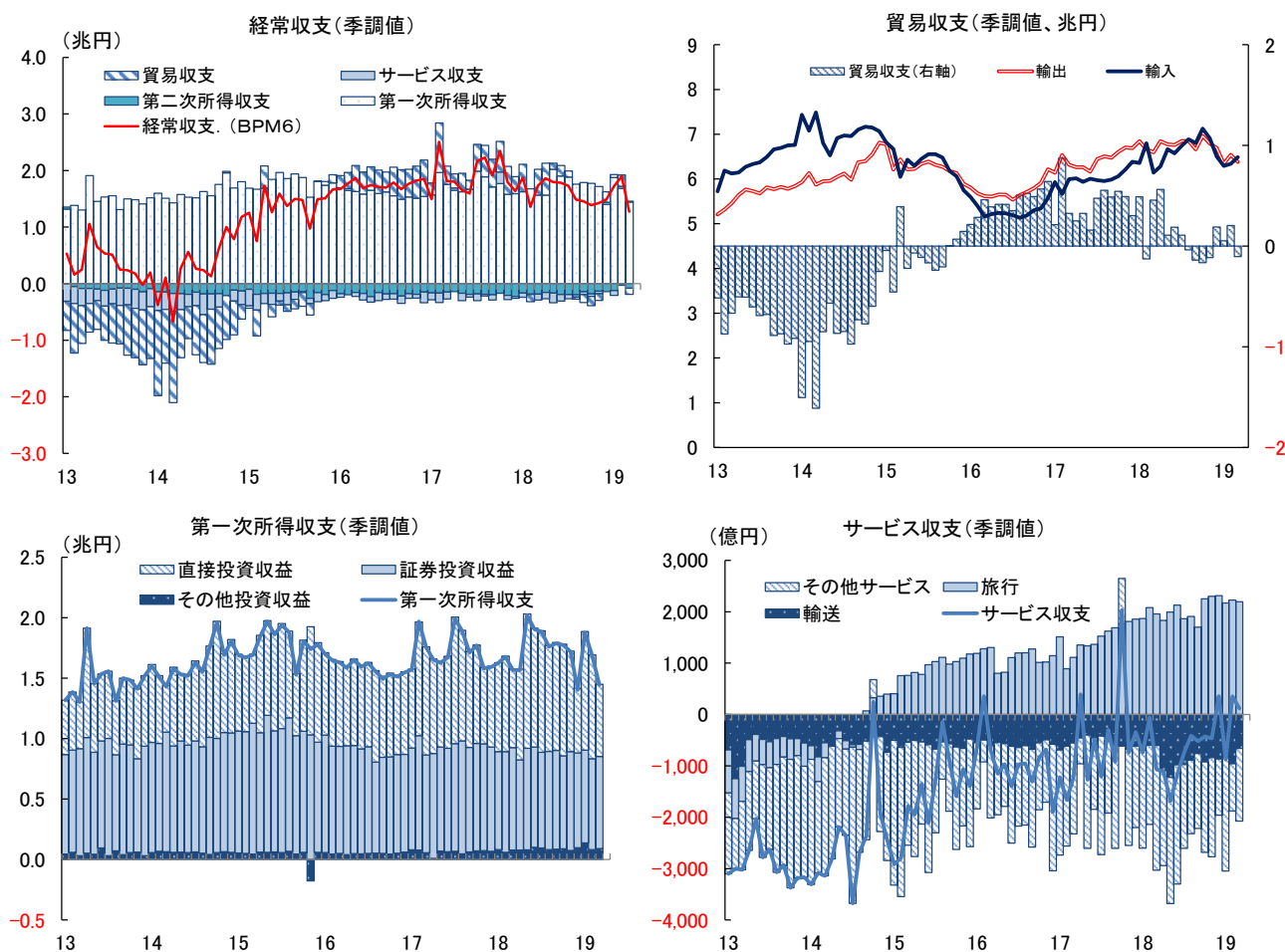
サービス収支は、121億円の黒字となり、前月の351億円の黒字から黒字幅を小幅に縮小した。内訳をみると、輸送収支が赤字幅を縮小（2月：958億円の赤字→3月：661億円の赤字）した一方で、その他サービス収支が赤字幅を拡大（2月：918億円の赤字→3月：1,412億円の赤字）した。

○経常収支は横ばいの動きを続ける見込み

以上のように、3月の経常収支（季節調整値）は、貿易収支の悪化を受けて、黒字幅が縮小する結果となった。

経常収支の先行きをみると、所得収支については、直接投資や証券投資を牽引役として、引き続き堅調な推移が続くだろう。一方で、貿易収支については、弱い動きが続く可能性が高いとみている。5月13日に公表された4月の貿易統計（上中旬）を見ても、輸出は前年比▲0.8%と力強さを欠いた動きが続く一方で、輸入は前年比+4.7%と原油価格上昇を主因として大きく増加している。更に、米中貿易摩擦は5月に入って激しさを増していることから、今後輸出が大きく改善するシナリオは描きにくく、貿易収支が経常収支の牽引役となる可能性は低いだろう。

今後についても、貿易収支の弱い動きを所得収支が下支えする形で、経常収支は横ばい程度の動きを続けると予想する。ただし、米中貿易摩擦が一層激しさを増す場合には、世界経済の減速を受けた輸出の減少や為替の円高推移が生じる可能性が高く、貿易収支及び所得収支の悪化から、経常収支の黒字幅が縮小するリスクがあることにも注意が必要である。



(出所)財務省「国際収支統計」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。